



香川大学長 木村好次

PROFILE

きむらよしつぐ  
専門分野：トライボロジー、メンテナンス工学  
学歴・職歴：東京大学工学部卒業(1959.3)、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了(1966.3)、富士精密工業(株)設計部(1959-1961)、東京大学助手(1966-1969)、東京大学講師(1969-1971)、東京大学助教授(1971-1979)、東京大学教授(1979-1997)  
学位：工学博士(東京大学 1966.3)

なんかこのころ、香川大学は変わりつつあると聞いたんですが。

学長 はい。2003年10月にそれまでの香川大学と香川医科大学がいつしよになって新しい香川大学ができ、2004年4月から国立大学法人になりました。法人化は全国斉で、国立大学としての使命は変わらないんですけどね。

じゃあ実態はこれまでどおり？

学長 とんでもない。日本では若い人たちの数がへり、外国へ留学する人もふえて、大学も国際競争の時代に入りました。国立大学といえども独立した法人が経営するわけですから、それぞれの個性を生かして、競争力を強くしなくては生き残れません。そりゃ大変ですね。だけど香川大学って、個性あるんですか。

学長 きびしいなあ…(笑)。たとえば首都圏なんかとちがって、香川という地域は独立性が強くて、一つのコミュニティを作っていると思うんですね。香川大学はそこに根をしっかりと下ろして、この地域の「知」の拠点としての役割を果たしたい。そのために、6つの学部をもつ総合大学として、あえて全方位的な大学をめざしたいと考えています。…なら、あんまり変わらないじゃないですか。今のままでいい？

# 地域に根ざした足腰の強い 総合大学へ変革の時。 ここで何がやりたいか、 目的を持って学ぶことが大切。

学長 いやいや、そうはいかない(笑)。香川大学はもつと足腰を強くしなきゃいけないと思ってる。この1年ほど、理事の人たちを中心に改革構想を練ってたんですよ。

まずは教育です。学生諸君にとっては、大学を出てからどういって活躍できるかが大問題でしょう。だから「社会のニーズに対応した人材の育成」に教育の焦点を当てよう。

大学の卒業生に社会が求めているのは、即戦力よりも、将来必要となる存在に「化ける」人材です。もちろん専門の知識をもつことが前提ですけど、状況を分析する力、正確な判断力をそなえて、変化に対応できる柔軟な考えができる人材が求められているんですね。そついつ必要な「付加価値」をはつきりさせて、それが確実につくような教育をやりたい。

学長のほうでも、それを確実に受け取ってほしい…。

学長 そうそう。授業というのは双方方向のもので、質問が二つ出るとクラスに活気が出て、その学期中ずっとハイレベルな授業になる、といつこともありますから。

学長 はいレベルといえば、レベルの高い研究も大事ですよ。

学長 ええ。先生が第一線の研究をやれば、その分野の先端的な展開にも詳しいはずだし、また、「これを語り伝えたい」というものをもつてるわけですよ。だから授業にも熱がこもって、面白くなるんだと思っただけですね。

学長 もつと、研究は大学が地域に貢献する基盤でもあるんです。香川大学では、世界に知られるようになった希少糖の研究をはじめ多種多様な研究をやっています。特色のある研究を大きく育てようと思っつて、2004年度にプロジェクト研究を6つスタートさせました。これからも総合大学の強味を生かして、さまざまな研究テーマに取り組んでいきたいと思っつてます。

最後に、香川大学はどういう大学をめざしているのか一言でいって？

学長 「学生中心の大学」です。いまお話しした香川大学をめざすところに共感して、「香川大学だから入学したい」という学生諸君が大勢来て下さるとうれしいですね。